

令和3年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 2	公益目的事業 11
主査名	鹿島 茂 中央大学名誉教授	
研究テーマ	準天頂衛星情報を共通の基盤とした自動車の利用が可能にする社会像の構築	
本年度は、過去 2 カ年に検討してきた準天頂衛星が提供する高精度な位置情報の交通分野での有効活用方法についての研究成果を基に、①高精度位置データを共通の基盤とした自動車が利用される社会として実現可能な姿を描くこと、②この社会で行われる現在の道路交通センサスとしての交通調査の設計と、交通事故防止を目的としたビジネスとして生まれる可能性がある複数のモデルを作成することを目的として研究を行う。 具体的には、①については、昨年度の設置義務化が有効であるとの研究成果をもとに高精度位置データを受信し自動車と環境特に空間との関係づけを可能にするスマートプレート、自動車と運転者の関係づけを可能にする自動車のキーと運転免許証を一体化したスマートキー、運転者と環境の関係づけを可能にする心拍や視線の動き等を計測する生体センサーが標準的に設けられた自動車が利用される社会の姿をこれまでに自動運転に関連して提案されている様々な構想等も参考に複数描く。②については、一昨年度の研究成果で課題の解決に有効であるした自動車交通量の把握分野と交通事故の詳細な発生状況の把握分野について活用を可能にする具体的手段について提案する。交通量の把握分野では、昨年度の研究で指摘されたゼロ OD 問題を解決できる交通調査法を設計し、現状の調査法に比較しこの方法で改善できる精度に加え費用についても検討する。交通事故の把握分野については、運転者に応じて希望のルートを案内したり、体調等を考慮した運転アドバイスをしたり、交通事故時のスムーズな対応を可能にするなどの様々なサービスを提供するビジネスモデルを作成する。 更に、昨年度まででは十分な成果が得られなかった、高精度の位置情報と現在収集されている情報を組み合わせて高品質な交通データを得るために、内容や精度の異なる複数のデータを組み合わせて新たなデータを作成する手法の開発についても検討を継続して行うことを考えている。 研究方法としては、研究テーマごとに研究会に議論の基となる資料を作成する責任者を設ける。現時点では、研究テーマ①については鹿島を、②については、交通調査については杉田を、交通事故については今長を予定している。また手法の開発については昨年引き続き小坂を予定している。研究責任者は必要に応じて個別に専門の方へのヒヤリング等を行う。研究会は 7 回程度行うことを予定し半分程度はリモートで行う。		